



2017. 5. 1

## 5月 ようちえんだより

西神戸YMCA幼稚園

新緑がまぶしい5月を迎えました。新しい年度も2ヶ月目に入りましたが、新入園児の子どもにとって幼稚園はどのような場所と感じたのでしょうか。お父さんもお母さんもない不安な場所と感じたのでしょうか。それとも、あれこれとうるさく言われない魅力に満ちた場所と感じたのでしょうか。また、進級児にとっては新しいクラス、新しい担任の先生となり、今までとはちょっと違ったドキドキ感や新鮮さを味わっているかもしれません。園庭や保育室から聞こえてくる子どもたちの声は日ごとに元気に大きくなってきているように感じます。少しずつですが子どもたちは新しい環境の中で、自分を表現する喜びを見出しているようです。

今月の聖句は“わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。”という箇所です。これは使徒パウロがコリントの信徒へ『この世の見えるものに惑わされないように』と伝えたものです。現代社会で働く多くの大人たちは現実の世界で生き、仕事にも成果が求められます。成果を測るのは数字であったり出来ばえであったり目に見える評価が大半を占めます。そこには重い責任も発生します。そのためどうしても見えるものや結果に目がいきがちとなります。過ぎ行く一時的なものに気を取られしまい気持ちや心の部分などの本当に大切な見えないものを見落とししてしまいます。気づいたときにはすでに手遅れということもあるかもしれません。見えないものをしっかり意識して見ようとしなければ、大変なことになってしまうことがあるのです。

子どもの成長についても身体や体重などのうわべの見える成長だけではないことはよくお分かりだと思います。したがって、内なる成長の見えない部分にしっかりと目を注がなければなりません。幼児期の成長をよく木の根っこにたとえます。土の中に伸びていく木の根が育つように外からはどれだけ育っているかがわかりません。けれども木の根が土の中に広く深く逞しく伸びていくと、太い幹が育ち枝が広がり、葉が茂ります。そして花を咲かせ大きな実をつけていきます。逞しく育っていくと、少々の嵐や台風なんかにはびくともしない丈夫な木に成長します。このように考えると幼児期に本当に必要な経験や体験は何なのか、何を大切にしなければならぬのかが見えてきます。まさに見えないものが見えてくるようになります。そして、木が根っこを広く、深く、逞しく伸ばすためには、しっかりと水を注いだり、おひさまの光を十分に受けることが必要です。この注がれる水やおひさまの光となるものが、「愛される」ということなのかもしれません。お父さんお母さんの愛情はいうまでもありませんが、ご家族やわたしたち教職員の愛情も含め神様の大きな愛に包まれて「愛されて育つ」子どもたちを皆さんとともに見守っていきたくと思います。

年主題 『愛されて育つ』

<年主題聖句> 「あなたがたは神に愛されている子供です。」

(エフェソの信徒への手紙5章1節)

5月主題 「感じる」

聖句 “わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。”

(コリント信徒への手紙Ⅱ4章18節)